

PRAEVIDENTIA DAILY (9月12日)

昨日までの世界：ドル続伸、除く対欧州通貨

昨日も特段のドル買い新規材料はなく、米中長期債利回りは概ね横ばいで、むしろ米経済指標では新規失業保険申請件数は31.5万人と予想比悪化したにも拘らず、ドルが対カナダドル、豪ドル、NZドル等を中心に上昇する展開となった。豪ドルは、**豪8月雇用統計**が予想を大幅に上回り、失業率は前月の6.4%から6.1%へ急反落したことから、一時豪ドル高米ドル安となったものの、その後豪ドルは反落し、豪ドル/米ドル相場は統計発表後の上昇以上に反落、米ドル高トレンドの強さを印象付ける動きとなった。ここ数日、強力なドル高要因は無い中で、一地区連銀エコノミストのレポートや、来週の9月FOMCへの期待感など、やや後付けの理由によってドル高トレンドが補強されている印象だ。

ドル/円相場は、東京時間昼過ぎに**安倍首相と黒田日銀総裁が会談**、特段目新しい内容はなかったが、陰で追加緩和への要請があり、黒田総裁はそれを拒まない、との見方があったとみられ、円売り圧力が強まり、107円乗せとなった。その後東京時間夜11時からのWBSでの黒田総裁生出演でも、特段目新しい発言はなかったが、発言を受けて上下しつつ、107円台をкаろうじて維持して引けている。基本的に、黒田総裁からのメッセージは、足許消費など一部に想定より弱い動きがあるが、今後回復に向かい、現在のところ追加緩和の必要はない、但し何かあれば追加緩和も辞さない、というもので、これまでと殆ど変化がなく、必ずしも目先の追加緩和の可能性が高まった訳ではないが、こうした中でのドル/円の上昇継続は、市場がいかにドル買い円売りをしたいか、を反映した動きといえる。

他方、ユーロやポンドなどの対欧州通貨ではドル高は一服・反落している。特にポンドは、**スコットランドの独立を巡る住民投票に関する最新の世論調査 (YouGov)**で、独立反対が52、賛成が48と、同じ世論調査での先週末の結果(独立賛成51、反対49)とは逆の結果となったことから、ポンドの買戻しが持ち込まれた。18日の投票に向けて、世論調査結果で右往左往する展開が続きそうだ。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

ドル/円	変化率 +0.3	米日2年金利差 -0.00	米2年金利 +0.00	日2年金利 +0.00	米日10年金利差 -0.01	米10年金利 +0.01	日10年金利 +0.02	米株価 +0.1	日株価 +0.8	原油WTI +1.3	原油Brent +0.1
ユーロ/ドル	変化率 +0.1	独米2年金利差 -0.01	独2年金利 -0.01	米2年金利 +0.00	独米10年金利差 +0.04	独10年金利 +0.05	米10年金利 +0.01	欧株価 -0.2	米株価 +0.1	原油Brent +0.1	西伊の対独格差 +0.00
ポンド/ドル	変化率 +0.3	英米2年金利差 +0.02	英2年金利 +0.02	米2年金利 +0.00	英米10年金利差 -0.02	英10年金利 -0.01	米10年金利 +0.01	英株価 -0.4	米株価 +0.1		
豪ドル/米ドル	変化率 -0.6	豪米2年金利差 +0.04	豪2年金利 +0.04	米2年金利 +0.00	豪米10年金利差 +0.05	豪10年金利 +0.07	米10年金利 +0.01	米株価 +0.1	中国株価 -0.3	CRB -0.3	
NZドル/米ドル	変化率 -0.5	NZ-米2年金利差 -0.02	NZ2年金利 -0.02	米2年金利 +0.00	NZ-米10年金利差 -0.04	NZ10年金利 -0.03	米10年金利 +0.01	米株価 +0.1	中国株価 -0.3	CRB -0.3	
米ドル/加ドル	変化率 +0.9	米加2年金利差 +0.01	米2年金利 +0.00	加2年金利 -0.00	米加10年金利差 +0.02	米10年金利 +0.01	加10年金利 -0.01	米株価 +0.1	原油WTI +1.3	CRB -0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：冷静（ポジション調整）と情熱（トレンド追随）の間

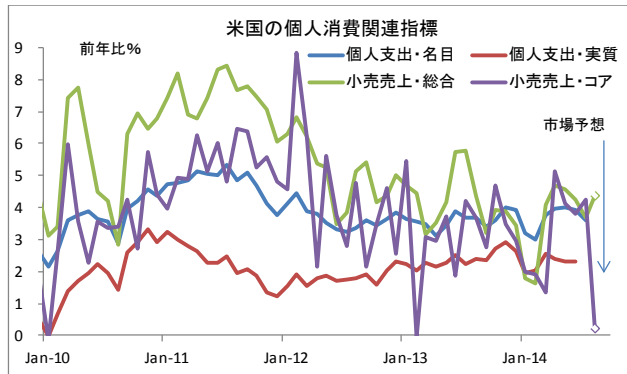
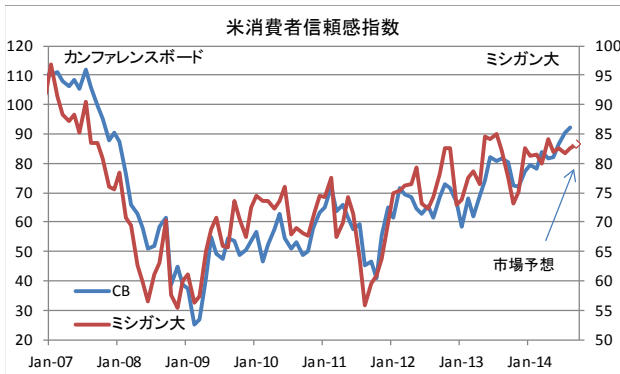
きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
黒田日銀総裁講演	15:05			
ユーロ圏7月鉱工業生産・前月比	18:00	-0.3%	+0.5%	
米8月輸入価格・前月比	21:30	-0.2%	-0.9%	
米8月小売売上高・総合・前月比	21:30	0.0%	+0.6%	
同・除く自動車・ガソリン・建築資材	21:30	+0.1%	+0.5%	
米9月ミシガン大消費者信頼感指数・速報	22:55	82.5	83.3	
米国とEU、対ロシア追加経済制裁発動 <13日>				
中国8月固定資産投資・年初来	14:30	+17.0%	+16.9%	
同・鉱工業生産・前年比		+9.0%	+8.8%	
同・小売売上高・前年比		+12.2%	+12.1%	

（出所）トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日も、対欧州通貨以外でのドル高トレンドが続くかが焦点で、特にドル/円では黒田総裁講演および米小売売上高が注目される。当社は引き続き、市場の米利上げ早期開始期待とドルロング積み上げは行き過ぎとみており、いつ調整が起きてもおかしくなく、本日は週末を控えたポジション調整の可能性もあるが、タカ派度が高まると市場の期待感が高まる来週の9月FOMCまでは、材料に拘らずドル買いが続くかもしれない。黒田総裁も、昨日の発言から大きく変化するとは予想されないが、インフレ目標達成が危うくなれば追加緩和を行う、といった追加緩和の可能性を示唆する部分に反応し円売りが強まる可能性が高そうだ。

米国では消費関連統計が発表され、小売売上高、消費者信頼感ともに前月からの改善が予想されている。米国では雇用増や株高を反映して消費は増加基調にあるが、伸びが加速しているという状況ではなく、特にインフレ率がじりじりと高まる中で実質消費はむしろ前年比伸び率が鈍化傾向にある（下の右図の赤線）。そして今回も、コア小売売上高が市場予想程度の伸びに留まると、前年比ではほぼゼロで、あまり強い結果とはいえない。とは言え、足許はドル高基調が強いため、予想比上振れの場合のドル高の反応の方が大きく、下振れでもドル下落は小幅となりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641